

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名	KOROBOCHKINA Alena Valerievna
学位	博士(学術)
学位記番号	新大院博(学)第98号
学位授与の日付	令和2年3月23日
学位授与の要件	学位規則第3条第3項該当
博士論文名	中央アジア地域秩序における上海協力機構 —非伝統的安全保障と秩序維持—
論文審査委員	主査教授 真水 康樹 副査 准教授 稲吉 晃 副査 准教授 道上 真有 副査教授 梁 雲祥 副査 防衛大学校 准教授 伊藤 融

博士論文の要旨

本論文は、中央アジアを中心とする地域機構である上海協力機構について、特に非伝統的安全保障の観点から、地域秩序維持に対するその役割を中心に検討したものである。ここで非伝統的安全保障とはテロリズムや過激主義、麻薬流入への対抗、また、隣接する紛争地域への対処などを意味している。その限りでは、軍事的意味を中心とする伝統的安全保障とはもちろん区別されるが、非伝統的とは言っても、安全保障である限りにおいては、軍事的なものともまったく無関係なわけではない。

第一章では、本論に必要な限りで、上海協力機構の組織と意思決定メカニズムについて考察されている。2001年の成立から2015年までの期間、上海協力機構は、4つの中央アジア諸国と中ロ、合計6カ国を正式加盟国としていた。また、この6カ国のなかに、中ロという二大国が含まれていることもこの機構の存在をユニークなものとしている。中央アジアにおいて、この機構が存続した理由は、この6カ国間の協力とそれを支える利害の調整とバランスにあったといえる。

第二章では、上海協力機構設立のそもそもの目的だった広義のテロリズムに関する問題が分析されている。中国語由来の「三悪」はこの地域ではすでに共通語となっており、「テロリズム」、「分離主義」、「過激主義」がそれであり、本論文の中心課題のひとつとなっている。本章では、上海協力機構加盟全6カ国それぞれのテロリズム、過激主義についての認識や理解が法規定にまで定位しつつ検討される一方、中央アジア諸国における、しばしば国境をま

たぐテロ組織・過激組織について、詳細な分析がおこなわれている。最後に、この問題についての司令塔である「地域反テロ機構 RATS」の役割と機能について検討されており緻密な論述が展開されている。

第三章では、主に、麻薬流入問題と関連してアフガニスタン紛争と上海協力機構の関係について論じられている。それは第1に、悪質な薬物としての麻薬の問題であり、第2に資金源としての麻薬が考察されている。同時に第3として、アフガニスタンという紛争地域が隣国であること、あるいは近隣に存在することと上海協力機構の存続との関係が分析されている。

このように、第二章・第三章では、非伝統的安全保障の面から秩序維持の問題が考察された。これに続いて、第四章では伝統的安全保障である軍事問題について、むしろその限界を中心に検討されている。それは端的に独立国家共同体 CIS に属する「集団安全保障条約機構 CSTO」と上海協力機構との関係の問題であり、この分析をつうじて、中ロそれぞれの思惑の違いや、安全保障についてロシアに依存する国とそうではない国との立場の違いも明らかになる。このように本章では、軍事的・伝統的安全保障面での協力の難しさが詳細に論じられている。

審査結果の要旨

本論文の根底をなす問題意識は、上海協力機構による中央アジアの秩序維持にある。言い換えれば、中央アジアにおける地域的な国家間秩序の維持について、上海協力機構がいかなる役割を果たしてきたのか。また、どのような国家間バランスが、中央アジアにおいて上海協力機構を曲がりなりにも機能させ、存続させてきたのか、という問題でもある。

本論文は、こうした問題意識を根底に持ちながら、テロリズムや過激主義との対抗、麻薬流入阻止、紛争地帯である隣国への対処といった非伝統的な安全保障問題や、CSTO などの伝統的安全保障機構と、上海協力機構との関わりを中心に考察をおこなっている。

第一章では、上海協力機構運営の仕組みと意思決定メカニズムが、次章以降の論述に必要な限りで、分かりやすく整理、検討されている。そして、中ロを含む6カ国によって、機構がどのように運営され、意思決定がなされてきたのかが周到に考察され、そこにまず、上海協力機構の秩序維持機能の基礎が見いだされている。

反テロリズムを主題にした第二章では、上海協力機構構成6カ国について、それぞれの法規定におけるテロリズム、分離主義、過激主義についての認識が豊富な資料を用いて分析されたうえで、詳細な比較考察がおこなわれている。さらに、構成国のすべてが共有する対テロ規則、対策についても、踏み込んだ分析がなされている。対象6カ国すべての言語に精通

することは不可能であるが、地域的な普遍言語であるロシア語を主に、それにつぐ普遍言語である中国語も使い、大量の一次資料が用いられている点は、大いに評価される。特に、中央アジア各国の上海協力機構事務局や会議において収集された資料も多く、ロシア語もしくはロシア語を媒介とした資料が多用されている。そのため、英語による資料だけでは肉薄できない点にまで考察が及んでいることは注目される。何より、この地域のすべての国がいわゆる権威主義体制であり資料公開の程度が極めて低いことを考えれば、資料収集に費やされた努力と情熱は、いっそう高く評価されよう。

第三章は、テロリズムや過激主義の資金源になりうる麻薬密売について、生産や販売ルートについて言及した上で、上海協力機構による共通した対応について分析されている。さらに、紛争地域そのものとしてのアフガンニスタン地域またアフガンニスタン紛争それ自体が、上海協力機構にあたえた影響についても踏み込んだ分析がおこなわれている。

第四章は、軍事的安全保障について検討しており、その基本視角はロシアが主導する CSTO と上海協力機構との関係である。もっとも、その協力は実際には順調には機能していない。本章は、協力が容易ではない諸点について、さまざまな一次資料を用いながら丁寧に検証している。それはまた、中ロの姿勢の違いの直接の反映でもある。本章の内容である伝統的安全保障の領域は、この地域における地域協力の難しさを最も象徴している部分でもある。

以上、KOROBOCHKINA Alena Valerievna の博士論文「中央アジア地域秩序における上海協力機構—非伝統的安全保障と秩序維持—」は、原加盟国 6 カ国によって構成された時代(2001-2015 年)において、中央アジアにおける秩序維持に対し、上海協力機構が非伝統的安全保障の面において果たした役割を分析した論文として評価できる。一方で、第一章の内容がいささか一般的である点、第二章において分離主義の問題が必ずしも正面から論じられていない点、また第四章において軍事的安全保障の将来の見通しについて楽観的にすぎる判断が見られる点など、なお不十分な点があることは確かである。しかしながら、上海協力機構の主要な役割を地域秩序の維持に見定め、中ロだけに偏らず中央アジア 4 カ国それぞれの意図と姿勢に十分に目を配りつつ、上海協力機構の機能を特に非伝統的安全保障という論点を中心に分析した点において、一貫した問題意識のもとで、緻密な分析による体系的な論述がなされているといえる。それは、ともすれば伝統的安全保障の面と中ロの意図と姿勢に重きを置きがちな従前の研究状況に、一段の貢献をおこなったものと評価しうる。なにより、英露中日の 4 カ国語を駆使し、渉猟された資料・先行文献の幅も広範であり、その自然な結果として、多角的な視点からの分析がおこなわれている点も評価することができる。

以上のことから、本論文は博士(学術)論文としての水準に十分に達していると評価することができるというのが、本審査委員会の一致した結論である。